

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から V01.44

東日本大震災（2011年3月11日）から10年です。その頃皆さんは3歳～5歳くらいですから、記憶にない人も多いと思いますが、「すごい津波だった」ということは誰しも聞いていると思います。たくさんの方が亡くなった中、学校にいた児童生徒全員が助かった地域があります。岩手県釜石市です。その当時、「釜石の奇跡」といわれるほどすごいことでした。なぜか？その答えがこの本の中にあります。

「みんなを守るいのちの授業 大つなみと釜石の子どもたち」

片田敏孝 NHK取材班 NHK出版

釜石市は、津波におそわれることを想定して、学校での津波防災教育に取り組んできました。その結果として、子どもたちは教えられたとおり、いや、教えられた以上の行動をとることで、おそってきた巨大津波から無事に生きのこりました。（中略）日本では、これからも大地震が発生すると考えられている地域が多くあります。そうした地域のみなさんにも、きつとなにかのお役にたてるにちがいありません。

（文中より）

防災を考え避難訓練をしても、残念ながら亡くなってしまった人もたくさんいらっしゃいます。そのご遺体を、生前の姿に少しでも近づけてご遺族とお別れをしていただくために、ボランティアで活動された「復元納棺師」の方の本も是非読んでください。命について深く考えさせられる一冊です。

「心のおくりびと 東日本大震災 復元納棺師

～思い出が動き出す日～

今西乃子 写真・浜田一男 金の星社

